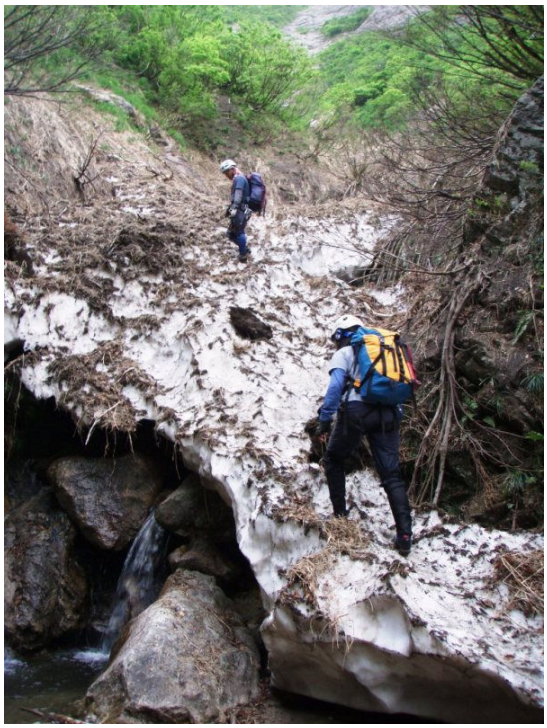
ジロト沢・春の例大祭

芋川　ジロト沢Ｂルンゼ右スラブ

大野



【日時】　2007年5月27日（日）
【メンバー】L大野、佐貫、高柳

今年もやって来ました春のジロト沢。今回はＢルンゼ右スラブを目指す。ジャンプ失敗とぎっくり腰で山菜山行と化した昨年に続く挑戦である。週間予報は直前になって悪化し、寒気の影響で新潟県は午後から雷雨の可能性もあるとのこと。仕方ないので､珍しくも4時半起きで早出をすることに。

目覚めると、空はどんよりとしており、時折ぱらついている。雷雨は怖いが小さな沢だし「何とかなんべ」と出発。林道から先の登山道は、先月は萌え出ずる新緑が美しかったが、今回は緑が濃い。藤の花が咲き、ウルイも葉が開いている。勝手知ったる道から沢を辿る。昨年はかなりの雪を見たが、今年はナメと滝を越え、遙かに布晒の大滝を臨む所まで来ても雪がない。Ａルンゼの下でやっと雪渓が現れたが、その先の滝は姿を現している。ウドを探して目が泳ぐが、気配もない。

Ｂルンゼ出合いも雪がない。2ｍの滝を二つ越すと、前スラブの出合いまでは雪渓だが、その上は8ｍスラブ滝が顔を出している。この滝に右壁に取り付くが､泥の乗った壁は見た目以上に悪かった。その上は雪渓となるが､昨年より目測で４～5ｍは雪が少ない。昨年は苦労した右スラブへの取付きも、高柳さんが右のテラスに良いルートを見つけてくれた。

私はアクアステルスであったが、佐貫さん・高柳さんはここでフラットソールに履替え。１Ｐ目。大野トップ。最初の岩壁は意外に悪く、Ⅲ-の箇所が２～３はあったか。これを越えると、足で登ることができるスラブ。２Ｐ目は高柳さんトップ。少し上がるとルンゼは左に曲がり爽快感が増す。

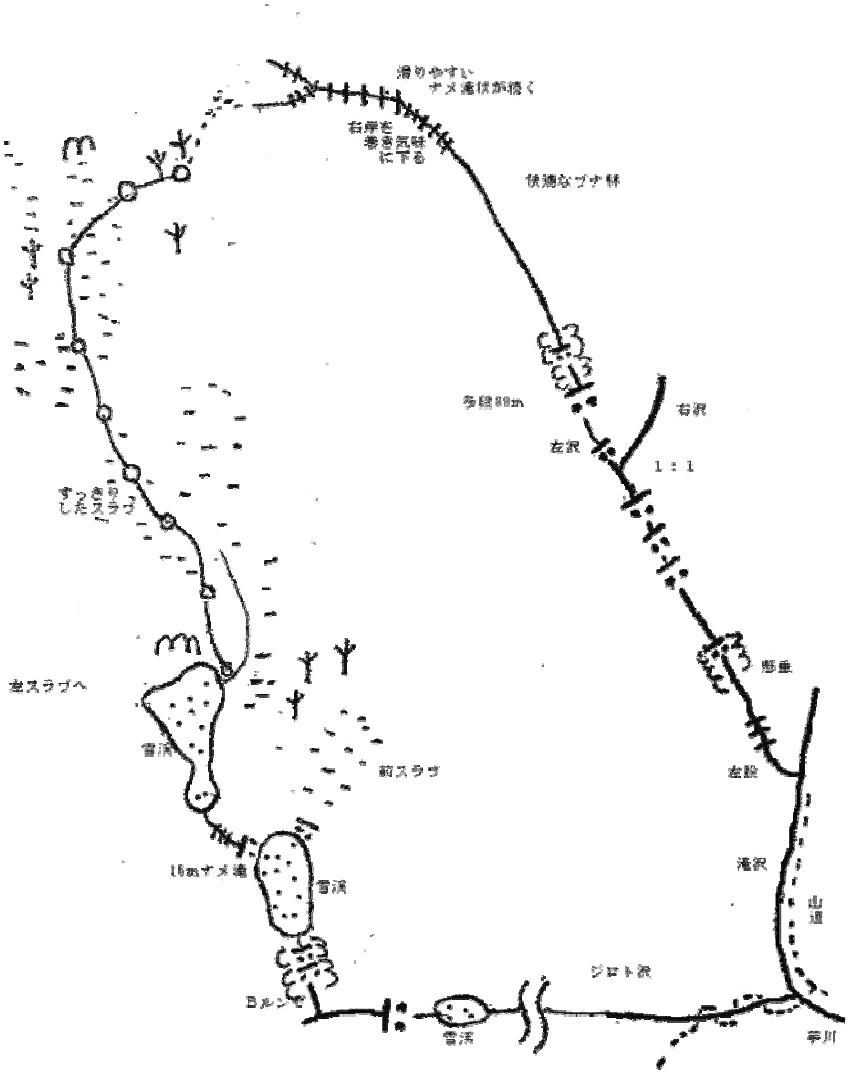
佐貫さんにトップを打診するが、岩トレもしていないということで、今回は私と高柳さんが交代でトップを務めることに。３～５Ｐは快適なスラブに自由にルートが取れる。時折手を使うが、フリクションに身を任せてぐいぐい登る。登山大系では１２～３ピッチとあるが、５Ｐ目で早くも終わりが見えてきた感じ。高柳さんがスラブの左側にザイル（６Ｐ目）を伸ばすと、奥壁に囲まれたどん詰まり至る。のんびりと飯でも食いたい所であるが、ブヨがあまりに煩く休憩する雰囲気ではない。７Ｐ目は大野がスラブを横切り、多少浮き石のある岩場を登ると樹林が近づいてくる。振り返ると、略奪点が遙かに見える。高柳さんがおまけの８Ｐ目でザイルを引いて、すぐに樹林に入った。

下山はＡＢルンゼの下降を考えたが、滝沢左股方面に入っていってしまったので、そのまま沢を下降する。上部は滑りのあるナメが延々と続く。滑ると怖いので右岸の疎林を歩いた方が楽。ナメが終わる頃、左岸側に「こんな所にこんな素敵なブナ林が！」という森が広がる。荒々しいスラブの側に広がる癒しの空間。少し開き気味のコシアブラを取りながら散策すれば、新緑が気持ちよい。

傾斜が強くなって沢に戻ると両岸が狭まり、行く手に空間が広がった。地図上崖マークの大滝である。最上部は右岸の巻き。テラスを渡って岩溝状を下ると大きめのテラス。下段は木につかまって右岸を巻き下ると、すぐに右沢と出合う。滝の下には少し時期が遅れた見事なウド畑。仁さんなら収穫したであろうけど・・・。

なおも、ゴルジュと滝が連続し、なかなか楽しい。一カ所懸垂したほかは、適当に下り、ヤブっぽい左股の出合い。滝沢の左岸に少し上がると、うっすらとした踏跡があり、これを辿ると二股に出た。

春の一日を遊ぶなかなか良い山行でした。



【グレード】2級（フェルト靴なら3級）

【行程】6/26　林道終点（5:40）－右スラブ取付き（7:40）－北東尾根（10:20）－林道終点（14:30）

【地図】六日町、兎岳